

群 教 セ	G02-03
	令4.281集
	社会一中

課題やめあてに対する自分なりの考えをもち、 その考えを深める生徒の育成

—— ICTを活用したシンキングツールの効果的な使用と

意見交流から自分の考えを再考する活動を通して——

特別研修員 津久井 仁美

I 研究テーマ設定の理由

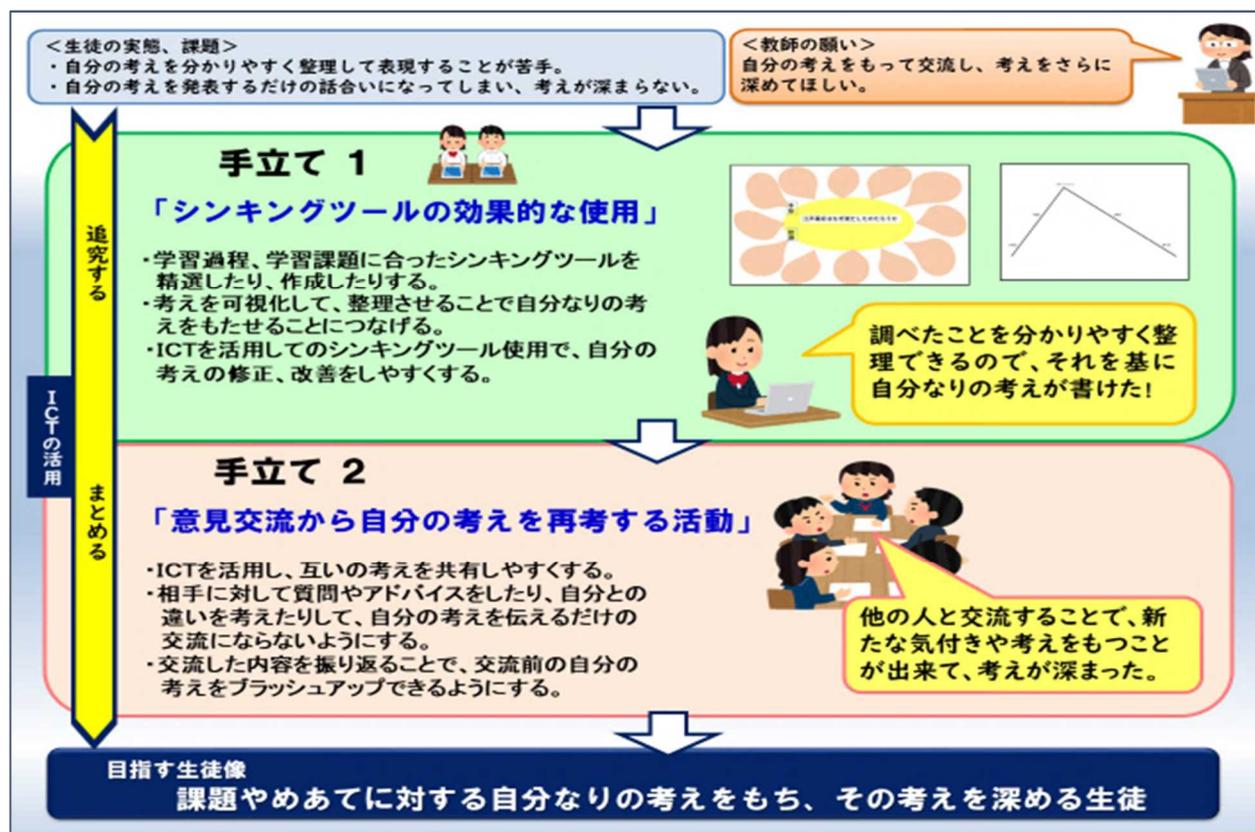
中学校学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。また令和4年度の県の学校教育の指針では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けたICTの有効活用の促進が求められている。

研究協力校の生徒は、図やグラフなどの資料から社会的な事象の意義や特色などを読み取ることができず、読み取ったことをもとに自分なりの考えをもつことを苦手とする生徒が多い。また、その考えを文章で表現することも苦手とする生徒も多くいる。そのような生徒に、まずは自分なりの考えを確実にもたせたいと考えた。また、その考えを友達と交流することで生徒の考えが洗練され、深い学びにつながるのではないかと考えた。

そこで、生徒が自分なりの考えをもてるように、調べた事象や自分の考えを可視化し、思考を整理できる「シンキングツール」を使用する。さらに、ICTを活用して考えを共有した後、友達と意見交流をして再考すれば、自分の考えを更に深めることができると考え上記のとおり、主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が自分なりの考えをもち、その考えを深められるようにするために、次のような手立ての実践を試みた。

手立て1 シンキングツールの効果的な使用

手立て2 意見交流から自分の考えを再考する活動

手立て1では、単元の課題をつかんだ後、「追究する」過程において自分なりの考えをもてるよう、シンキングツールを使用し考えを整理させる場面を設定する。「追究する」過程では、調べた事象を可視化し、それを比較、分類、総合等することで、事象と事象の関係性を整理させる。それを基に、課題に対しての自分なりの考えをもたせる活動を設定する。また、単元の課題を「まとめる」過程においては、「追究する」過程で使用したシンキングツールを、自分のタブレット上でいつでも見られるようにすることで、単元の課題に対する自分なりの考えをまとめる際の補助資料としても効果的なのではないかと考えた。

手立て2では、シンキングツールにより整理できた自分の考えを、ICTを活用して友達と共有し、意見交流する中で、さらに考えを深められるようにしたいと考えた。ICTでの共有の利点は、クラス全員の考えがタブレット上ですぐに確認できる点である。自分のグループだけでなく他のグループの生徒とも共有できるため、より多くの友達の考えに触れ、自分の考えを深めるための参考にできる。さらに考えを深めるために、質問や疑問、アドバイスなどを交流する時間も設定する。最後に、互いの考えの共有や交流を振り返り、自分の考えをまとめる。このように、考えを「共有→交流→振り返り」活動を授業の中で設定することで、生徒がより深い考えに到達できると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- シンキングツールを授業で適宜使用することで、生徒が次第に使い方に慣れ、自分の考えを整理したり修正したりしながら、だんだんと分かりやすくまとめられるようになった。
- 課題に対して自分なりの考えをもつことができたので、それを基に話し合いをする際にも、自信をもって自分の意見が言える様子が見られた。
- グループ内だけでなく、それぞれのグループの考えも共有し、質問し合う交流を取り入れたことで、課題を多面的に考察することにつながり、生徒の考えが深まった。
- 最初の考えとブラッシュアップした最後の考えを比較させることで、自分の考えが深まったことを実感し、考えの共有や交流のよさを振り返りに記入している様子が見られた。

2 課題

- 単元の課題に合わせて自作したシンキングツールをまとめに使用したが、既存のシンキングツールにこだわらず、生徒が考えをまとめやすいよう今後も新たなシンキングツールを開発していく必要性を感じた。
- シンキングツールには、キーワードを打ち込んでいるため、それを文章化する際には、さらに支援が必要である。歴史的事象の意味や原因などを十分理解させておく必要もあると感じた。
- 考えを書くのが苦手な生徒も書けるよう、早く書けた生徒の記述を共有したり、全体でシンキングツールの記述を確認したりできるとよかった。共有するタイミングの見極めも重要である。

実践例

1 単元名 「欧米の進出と日本の開国」（第2学年・2学期）

2 本単元について

本単元は、「C（1）近代の日本と世界（ア）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」に関わる項目である。

これまでの学習で、江戸幕府が長期政権となった理由や、社会の変化や飢饉の発生、外国船の出現などにより江戸幕府は改革を余儀なくされ、次第に幕藩体制の維持が難しくなってきたことを学んできた。そこで本単元の導入において、「江戸幕府はなぜ滅亡したのか」という課題を設定し、滅亡の理由を予想させることで見通しをもたせたい。「追究する」過程では、欧米諸国のアジア進出や開国後の社会の変化、倒幕の動きなどについて、適宜シンキングツールを使用し、友達と意見を交流する中で、歴史的事象の特色や原因、影響などについて、自分なりの考えを深められるようにしていく。「まとめる」過程では、単元の課題に対して自分なりの考えをまとめられるよう、まず既習事項からキーワードをまとめたシンキングツールを見て自分なりの考えをもつ。それをグループで話し合う際には、別のシンキングツールを使用してグループの考えをまとめさせる。その後ICTを活用して、共有、交流させることで、更に考えが深められると考えた。以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きの学習を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	<p>(1) 欧米諸国のアジア進出や開国とその影響などから、社会が大きく変化したことや江戸幕府が滅亡した理由などを理解するとともに、資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）</p> <p>(2) 江戸幕府が滅亡した理由を欧米諸国のアジア進出や開国、その後の幕府の対応などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして多面的・多角的に考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>(3) 欧米諸国のアジア進出、幕末の社会の変化、江戸幕府の滅亡などについて、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。（学びに向かう力、人間性等）</p>	
評価規準	<p>(1) 欧米諸国のアジア進出や開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べてまとめ、社会の変化や江戸幕府が滅亡した理由などを理解している。（知識・技能）</p> <p>(2) 江戸幕府が滅亡した理由を欧米諸国のアジア進出や開国、その後の幕府の対応などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして多面的・多角的に考察し、表現している。（思考・判断・表現）</p> <p>(3) 欧米諸国のアジア進出、幕末の社会の変化、江戸幕府の滅亡などについて、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を主体的に追究、解決しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・江戸幕府がなぜ滅亡したのか、予想を出し合い、学習への見通しをもつ。
追究する	第2時	・欧米諸国のアジア進出の理由や背景などを調べる。「Yチャート」を使い視点を明確にし「アヘン戦争」「インド大反乱」を調べ、二人組のジグソー学習を行う。
	第3時	・ペリー来航から不平等条約締結までの過程を調べ、開国について考える。「賛成・反対シート」を使い、開国について自分の考えをまとめ、話し合う。
	第4時	・開国の日本の社会への影響を、政治・経済の面から調べる。「ベン図」を使い二人組のジグソー学習を行う。
	第5時	・江戸幕府滅亡までの経緯を調べる。
まとめる	第6時	・江戸幕府が滅亡した理由について、自分なりの考えをもち、交流する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第6時に当たる。ここではまず、単元の課題である「江戸幕府はなぜ滅亡したのか」という課題に対して、原因となった歴史的事象（キーワード）が一目で見られる、まとめ用のシンキングツール（「お花チャート」）を使用する。その後、友達と意見を交流し合いながら、滅亡までの流れをまとめやすいシンキングツール（「プロット図」）にまとめ、滅亡の原因についての考えをさらに深めるための交流活動を行った。

生徒が自分なりの考えをもち、さらにその考えを深められるよう以下の手立てを具体化した。

手立て1 シンキングツールの効果的な使用

本時の追究する場面では、話合いがスムーズに進むよう、あらかじめ「お花チャート」のキーワードから自分が幕府滅亡の最大の原因であると思われるものを選んでおく。滅亡までの流れがまとめやすくなるよう、それらを持ち寄ってグループで話し合い、「プロット図」を使用して考えを整理する。

手立て2 意見交流から自分の考えをする活動

本時のグループ活動においては、まず学習支援ソフトの共有機能（以下「共有シート」）を利用して、友達と考えを出し合い、グループで一枚の「プロット図」にキーワードを整理していく。その後グループごとの考えを共有し、共通点や相違点を確認して他のグループへ質問するなどグループ間で交流する時間を設ける。その後、再度グループで話し合い、最後に自分の考えを再考し、単元の課題である江戸幕府滅亡の理由について、自分なりの考えをまとめられるようにする。

4 授業の実際

(1) 手立て1 シンキングツールの効果的な使用

本単元の「つかむ」過程では、単元の学習課題「江戸幕府はなぜ滅亡したのか」を設定し、学習支援ソフトの共有シートを使って、生徒にまず予想を出させ共有し、自分の予想を「お花チャート」に書き、学習への見通しをもたせた。

「追究する」過程では、各時間の学習課題に応じたシンキングツールを使用し、生徒が調べた事象を可視化し整理することで、自分の考えをもてるようにした。第2時では、「原因」「結果」「影響」の3つの視点を基に「アヘン戦争」「インド大反乱」を調べさせた。視点を3つに分けて整理させたことで、外国で起きた歴史的事象の理解を深めることにつながった（図1）。第3時では、開国についての自分の考えを「賛成・反対シート」にまとめ、交流した。自分の考えの根拠に既習事項を用いたことや共有により友達の考えにたくさん触れたことで、話し合い活動が活発に行われ、生徒は開国のメリットやデメリットについて深く考えることができた。第4時では「ベン図」を使用し、開国の影響を「政治」「経済」の両面から調べ整理させた。ベン図を用いたことで江戸幕府滅亡につながる共通のキーワードを見付けることができた。シンキングツールを使うことで、多面的な視点から課題に迫ることのよさを実感できたのではないかと考える。また、毎



図1 「Yチャート」

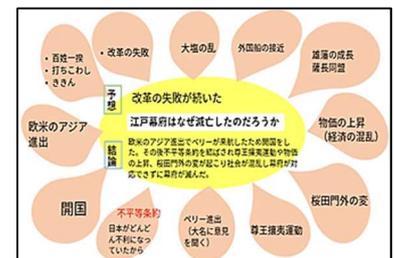


図2 「お花チャート」

時間の終末に「お花チャート」の花びらの部分に、その時間で学んだ歴史的事象から、「江戸幕府滅亡の原因」につながるとされるキーワードを打ち込ませ蓄積させていった（図2）。

「まとめる」過程（本時）では、まず生徒一人一人が「お花チャート」のキーワードから、あらかじめ江戸幕府滅亡の最大の原因となったものを選んでおき、理由を考えた。その後、共有シート上の「プロット図」にキーワードを打ち込み、グループで話し合いながらキーワードを並べ替え整理し、滅亡までの流れをまとめることができた。最後のまとめでは交流後グループで完成させた「プ

ロット図」を見ながら、滅亡の理由についての自分なりの考えを、全員が書くことができた。

(2) 手立て2 意見交流から自分の考えを再考する活動

本時の「プロット図」を作成する際の話合いでは、司会係と記録係を決め、記録係がキーワードを並べ替え整理するようにした。どのグループも「プロット図」を完成させるために、どの事象が

幕府滅亡に一番影響があったのか、自分たちの考えを交流し、滅亡までの流れを考えていた。次に、各グループの「プロット図」を共有し、自分のグループと他のグループの図との共通点や相違点などを確認した。ほとんどのグループが滅亡の最大の原因を「開国」としていたが、生徒は「開国」というキーワードの前後に打ち込まれた事象がグループごとに違うことに気付いた。そこで、グループ間で意見を交流する時間を設けて、なぜ自分たちと違うキーワードを使っているのか確認させた。グループ間交流では、お互いに納得してもらえる答えになるよう、熱心に説明する様子が見られた。グループ間交流を行った後は、再度自分たちの「プロット図」を見直し、修正したり、キーワードを増やしたりなどし、考えをブラッシュアップできるよう促した。グループ間交流によってどのグループもキーワードの充実した「プロット図」にすることができた（図4）。このような活動を通して、江戸幕府滅亡の理由について生徒全員が自分なりの考えをもち、滅亡までの流れや、歴史的事象の関連などを意識して、単元の課題に対する結論をまとめることができた。



図3 グループ間交流の場面

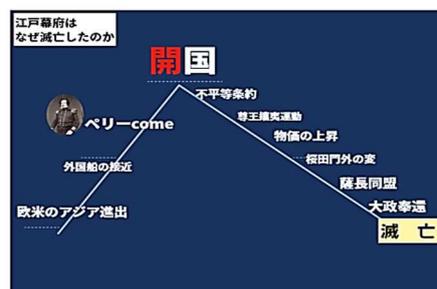


図4 できあがった「プロット図」

5 考察

手立て1として、調べた事象をシンキングツールにより可視化し、グループでの交流を通して整理したことで、自分なりの考えをまとめやすかったのではと考えられる。ICTの利点は文章の修正や改善がすぐにできるため、生徒の考える時間が多く確保できる点である。特に本単元全体を通して使用した自作の「お花チャート」は、滅亡につながるキーワードを毎時間書き込んでおいたため、学習の積み重ねが一目で確認でき、効果的であったと考えられる。また生徒は完成した「プロット図」で滅亡までの流れを確認しながら、最終的に滅亡の理由について、自分なりの考えをまとめることができた。ただ、キーワードを文章化するのに時間を要した生徒もいたので、歴史的事象の意味や原因、影響などをしっかりと理解させておく必要性も感じた。しかし、以前の生徒の実態から考えると、大きな成果であったと考えられる。

手立て2として、以前は、意見交流の際には、自分の意見を発表するだけで終わってしまうことが多かったが、ICTの使用により互いの考えがすぐに共有でき、自分の考えと比較して共通点や相違点などが見付けやすいため、質問やアドバイスなどがしやすく効果的であった。また、交流後の考えの修正や改善がしやすく、どの生徒も交流を振り返って、歴史的事象を比較、関連付けるなどし自分の考えを更にブラッシュアップさせることができた。最後のまとめの記述からは、新たな考えに触れたり、改めて自分たちの考えを見直したりすることで、考えをさらに深める様子が見られた。

生徒は本単元の学習を通して、課題に対して自分なりの考えをもてたこと、考えが交流によってさらに深まったことが実感でき、振り返りの記述にもシンキングツールのよさやICTを活用した交流のよさが書かれていた。今後の学習においても、シンキングツールを効果的に使用し、意見交流により、更に考えを深められる活動を積極的に行っていきたい。